

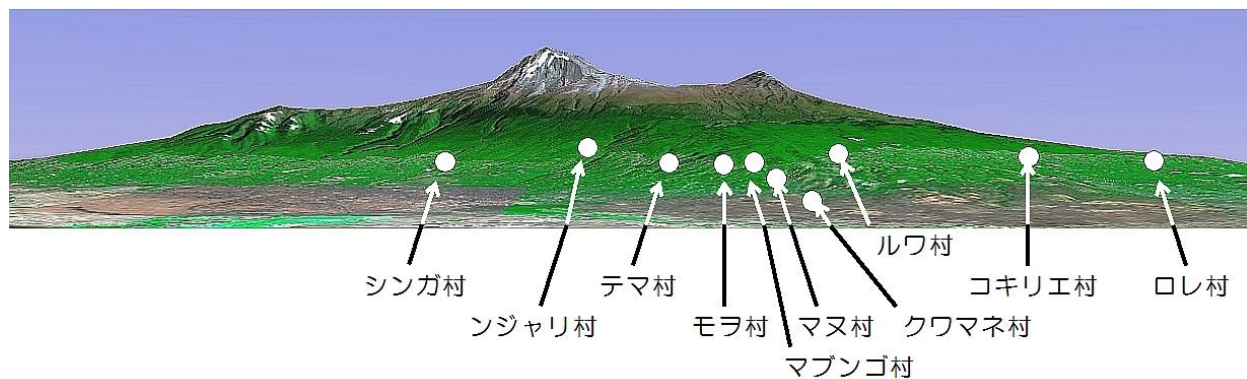
## “Msituni Uhai” 「森は命」 今年もキリマンジャロ山で植林が取り組まれました！



植林には村の大人たちとともに、たくさんの子どもたちも一緒に取り組んでいます！

白山きりまんじゃろプロジェクトでは、いつもキリマンジャロ山での植林活動を応援いただき誠にありがとうございます。今年もおかげさまでこの大雨季に多くの村人たちによって、キリマンジャロ山で森林回復に向けた植林が取り組まれました。

現地では本来4月からが本格的な大雨季なのですが、今年は降り始めが約1カ月遅れ、その後集中豪雨、そして再び雨不足という不安定な天候となり、一時は植林が危ぶまれたほどでした。村人たちは「主食のモロコシの収穫はひどい結果になるだろうな」とこぼしていましたが、植林はほぼ計画通りキリマンジャロ山の10村で計13,633本の苗木を植えることができました（下図）。



植林には村の大人も子どもも大勢が一緒になって取り組んでいます。本当は大変な作業なのですが、みんな家族のような彼らは、植林の間も会話が弾んでとても賑やかです。

例年だと植林地は標高2千メートル付近に集中するのですが、今年は8百メートル～2千メートルの広範囲にまたがって取り組まれたのが特徴です。植林地周辺の環境も、標高にしたがって半乾燥地、村落エリア、水源地と大きく異なってきます。

従来植林の主力は村の上部に位置する森林帯が中心だったのですが、昨年より村落エリアでの土砂崩れ防止のための植林に着手したこと、さらに今年は山麓下部の半乾燥エリアでの植林を再開したことから、こうした広範な標高をカバーする植林となりました。カウンターパートのTEACA (Tanzania Environmental Action Association) は来年以降も半乾燥地での植林を継続していく計画です。



植林の日、苗木を運ぶために集まってきた村人たち



子どもたちが苗木を運んでいます！



植林地までえっちらおっちら、キリマンジャロの山道を登っていきます

私たちが長く植林に取り組んでいる森林帯あるいは村落エリアでの植林地は、その現場まで行かないと見ることはできませんが、半乾燥地の植林地は幹線道路に近い場所もあり、道から見ることもできます。また20年ほど植林に取り組んでいるキリマンジャロ山のキルアヴンジョーという尾根は、遠望になりますが幹線道路からでも森が蘇りつつある様子を見ることができます。



森林帯に広がった裸地での植林の様相



急な斜面に苗木が列状に植えられているのが分かります

植林する樹種は植林地の標高や土壌の状況によって様々な種類を組み合わせられており、全部で15樹種ほどになります。今年はグレビレア・ロブスタ（ヤマモガシ科）、ピナス・パツラ（マツ科）、クロトン・メガロカルパス（トウダイグサ科）などが主力樹種でした。マツ科は生長が早く、10年ほどで森になります。それ以外の樹種だと15年はかかります。

植えた後も数年間は補植、除草が必要で、その後枝打ち、間伐と続きます。村人たちはそうした植林後の育林管理にも熱心に取り組んでいます。



半乾燥地にある植林地。以前植えた木はすっかり大きくなっています！



山の中の植林地。いまでは木陰が村の会議場に！

現地ではすでに来年の植林に向けて村人たちが準備に取りかかっています。植林は彼らにとってすでに日常の一部、まるで一年のスケジュールに組み込まれた農作業のように当たり前のことになっています。そしてこうした村人たちの地道な努力が、キリマンジャロ山の森を守っています。それは彼らが他の誰よりも“Msituni uhai”（森は命）であることを知っているからに他なりません。



来年の植林に向けて、育苗用のポットに土を詰めている村人たち。時間を見つけてはこうして集まって、作業に取り組んでいます。

「白山きりまんじゃろプロジェクト」がこうしたキリマンジャロ山での植林活動を支えて下さっていることに対して、あらためて心よりの感謝を申し上げます。

2019年8月7日

タンザニア・ポレポレクラブ  
代表 藤沢俊介



＝ タンザニア・ポレポレクラブ ＝

〒182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203

E-mail : pole2club@hotmail.com、TEL : 03-3439-4847